

長崎・桜馬場中で万博出前授業

UDの街 未来のために

2025年大阪・関西万博の出前授業「EXP Oスクールキャラバン」が18日、長崎市立桜馬場中（大塚潤校長、394人）であった。2年生約130人が、誰もが使いやすいユニバーサルデザイン（UD）をテーマに、未来のためにできることを考えた。

万博を機に、持続可能な開発目標（SDGs）を学んでもらおうと、内閣官房国際博覧会推進本部事務局が、全国約200小中学校で実施している出前授業の一環。

桜馬場中では、日本国際博覧会協会副会長で京都精華大建築学科教授の



サコさん（右）と街歩きをしてユニバーサルデザインについて学ぶ生徒
＝長崎市内

ウスビ・サコさんがUDについて講演。「グローバル化が進み多様性を重視する社会だからこそUDが必要。コミュニケーションを取り合いながら、自分と相手を理解してデザインしていくことが大切」と語った。

講演後、生徒らはサコさんと共に学校近辺を散策。標識や坂道が多い長崎の街並みに着目し、誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、改善できることを考えた。

田中高人さん（14）は「普段見慣れている歩道や標識でも疑問を持ち、みんなが使いやすいデザインにすることが大切だと感じた」と話した。

（荒木瑞姫）